

研究主題「児童自ら『感じる』『考える』『見付ける』造形的な創造活動の指導の工夫 もの・人・こととかかわる体験的活動を通して」

東京都教職員研修センター研修部授業力向上課
新宿区立愛日小学校 教諭 柴田祐佳

研究のねらい

図画工作科は、表現や鑑賞の活動を通して、児童自らつくりだす喜びを味わうとともに造形的な創造活動の基礎的な能力を高めることを教科目標として指導を進めてきている。一方、中央教育審議会¹では、児童に特定の手順や表現方法でつくらせる指導の改善及び児童の造形への高い関心²を、発想の能力や表現の技能などの育成に結びつける指導の一層の充実を求めている。児童の実態からも、図画工作の授業が好きと感じながら、自分の発想に自信がもてず次の活動につながらない児童や、感じたり考えたりしたことが実現できず意欲が低下してしまうなどの児童がいる。これら課題への改善策として、学習の中で、児童が手や体全体の感覚を働かせながら、身の回りの形や色、環境とかかわり、自ら材料や用具を活用することができる授業の充実が示された¹。そこで本研究では、材料や用具などの「もの」や造形活動で行われる行為としての「こと」、学習を共に進める友達や教師などの「人」、この「もの・人・こと」と児童相互の関係性に着目した。児童一人一人が「もの」「人」「こと」と体全体の感覚を使ってかかわる体験的活動をすることで、自ら「感じる」「考える」「見付ける」力を関連的・総合的に発揮しながら造形活動をすることができると考え、指導の工夫について研究を進めた。

研究の方法と内容

1 中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会芸術専門部会(平成17年7月～)

2 図画工作科を「とても好き」「まあ好き」な小学生73.1%(平成17年文部科学省調査)

1 基礎研究

(1) 本研究における「もの」「人」「こと」とかかわる体験的活動について

中央教育審議会答申(平成20年1月)の教育内容に関する主な改善事項の中に「(前略)体験の充実が直接的なかかわりという点で極めて重要である。」とある。また、先行研究では、「体験は子供の身体性と深く結びつくかたちで、さまざまな形成力をもっている」³と示している。

基礎研究を踏まえ、造形的な創造活動で「児童が、実際に感じたり、試したりするなど実体験を通して学ぶこと」⁴について都内の小学校3校で授業観察と教師からの聞き取りによる事例分析を行った。結果、本研究では、造形的な創造活動における体験的活動を、児童が「もの」「人」「こと」と体全体の感覚を使ってかかわる中で、「感じる」「考える」「見付ける」力を発揮する

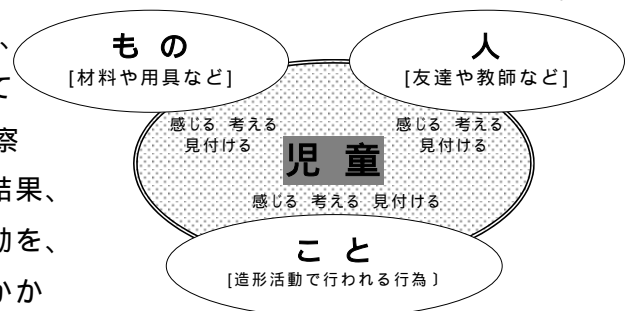


図1 造形的な創造活動における体験的活動

ことのできる活動と考えた。そして、それは造形活動の中で繰り返される関連的及び総合的なものであるととらえた。³ 京都大学大学院教授 矢野智司 初等教育資料「体験を深めることの意味」(平成10年8月・平成19年8月)

⁴ 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 奥村高明 初等教育資料(平成18年4月) 他

(2) 児童が本来もつ造形への関心について

小学校学習指導要領解説 図画工作編には、生活の中で幼い子供が積み木を組んでは崩し、また積み上げるなど、対象に自分から働きかけ、工夫して楽しむといった造形活動を例に「児童は、自分の思いや願いを絵にしたり、形に表したりする(中略)根源的な欲求をもっている。」と示している。また、児童が自分を取り巻く「もの」「人」「こと」に働きかけ、造形しようとする

「児童自ら『感じる』『考える』『見付ける』造形的な創造活動の指導の工夫
もの・人・こととかかわる体験的活動を通して」

表1 「もの」「人」「こと」に働きかけようとする児童の主な特徴の例(小学校学習指導要領解説より)

第1学年 第2学年	第3学年 第4学年	第5学年 第6学年
この時期の児童は ・ 思いついたことを意のままにかいたりつくったりする。 ・ 関心のあるものには直接触れようとする。 ・ 経験や知識をもとに自分なりに受け止め意味をわかろうとする。 ・ 友達と思いついたことを共有したり共に行動しようとする。	この時期の児童は ・ 体全体を働かせ対象にかかわる活動を好む。 ・ 大きな材料や広い場所に進んで働きかけようとする。 ・ 想像力を働かせ、表し方を工夫することに意欲を示すようになる。 ・ 友達と表し方をお互いに紹介しあおうとする。	この時期の児童は ・ 直接見ることができないものにも思いをめぐらせ自分なりにとらえ行動しようとする。 ・ 関心の対象が広がり対象に憧れをもって見たり、批判的に見たりする。 ・ 社会的な事柄に関心を示す ・ 友達の感じ方や表し方に関心をもつ。 ・ 自分の表現を第三者的に振り返り、見ようとする。

関心を本来の資質としてもっているとし、
特徴を2学年ごとに示している(表1)。

本研究では、児童本来の造形への関心・意欲を児童自ら「感じ」「考え」「見付け」ながら造形活動を行うための原動力ととらえた。

2 研究の仮説

図画工作科の指導において、児童が「もの」「人」「こと」と体全体の感覚を使ってかかわることのできる指導を工夫することで、児童自ら「感じる」「考える」「見付ける」力を関連的・総合的に発揮しながら造形活動をすることができる。

3 「もの」「人」「こと」と体全体の感覚を使って体験的にかかわることができる指導の工夫

児童が「もの」「人」「こと」と体全体の感覚を使ってかかわる中で、自ら「感じ」「考え」「見付け」ながら造形活動をすることができる指導の工夫の視点を次の3つとし、指導内容を整理して示した。

(1) 視点ア 「もの」「人」「こと」と体全体の感覚を使ってかかわることができる題材設定

造形への関心や児童の実態をとらえる。

児童の造形への関心(表1の活用)や児童の実態をとらえ、題材の方向性を決める。

教師自身も「もの」「人」「こと」と体全体の感覚を使ってかかわる。

児童が造形活動に生かす感覚を確かめるため、教師自身も「もの」「人」「こと」と体全体の感覚を使ってかかわる体験的活動をしながら、材料、用具、場所等から題材を決定する。

(2) 視点イ 「もの」「人」「こと」と体全体の感覚を使ってかかわることができる全体指導

出合いの場面で造形への関心を引き出す指導内容

児童の造形への関心・意欲をもとに、児童が体全体の感覚を使って「もの」「人」「こと」と主体的にかかわることができる出合わせ方の工夫をする。

やり直し可能な指導内容

児童が「もの」「人」「こと」と体全体の感覚を使ってかかわる中で、「感じる」「考える」「見付ける」造形活動を行きつ戻りつしながら進めることができるよう、やり直し可能な内容にする。

「感じる」「考える」「見付ける」造形活動の状況をとらえた上での適宜な全体指導

児童の表情や活動、つくりつつあるものなどから、学級全体の「感じる」「考える」「見付ける」造形活動の状況をとらえた上で適宜、「もの」「人」「こと」とのかかわりを促す全体指導をする。(図2)

(3) 視点ウ 「もの」「人」「こと」と体全体の感覚を使ってかかわることができる個別指導

児童一人一人の「感じる」「考える」「見付ける」造形活動の状況をとらえた上での適宜な個別指導

児童の表情や活動などから、「感じる」「考える」「見付ける」造形活動の状況をとらえた上で、その児童の必要性に応じた材料や方法などを、適宜、個別に指導する。

可能性を引き出す指導内容

活動に自信がもてない児童には「感じる」「考える」「見付ける」造形活動を教師が共に行いながら指導する。



図2 視点イ 適宜な全体指導の例

4 実践研究

実態や発達の異なる第2学年と第6学年を対象に題材を開発し、検証授業を行った。

(1) 「もの」「人」「こと」と体全体の感覚を使ってかかわることができる指導内容と児童の姿

指導の視点 の工夫	第2学年「大きな紙にであって」(全5時間)		第6学年「動物のすみか」(全5時間)	
	指導内容	児童の姿	指導内容	児童の姿
ア、 「もの」 「人」 「こと」 と体 全体 の感 覚	<p>題材のねらい:これまで出会った事の少ない大きさの「紙」に体全体の感覚を使ってかかわり、自ら「感じる」「考える」「見付ける」造形活動を通して、自らつくりだす喜びを味わう</p> <p>指導内容</p> <p>造形への関心・これまでの学習など、児童の実態をとらえる「もの」「人」「こと」</p> <p>教師自身も多種類の紙と体験的なかかわりをもつ「もの」「人」「こと」</p> <p>教師が想定した児童の活動が実現できる「紙」を選択する</p>  <p>ア「もの」にかかわる</p>	<p>関心のあるものには直接触れたり体ごと働きかけようとする</p> <p>「感じる」</p> <p>友達と思いついたことを共有し行動しようとする</p> <p>「考える」</p> <p>これまで多種類の「紙」を扱ってきており児童にとってかかわりやすい</p> <p>「感じる」</p> <p>いろいろな音が聞こえる「感じる」</p> <p>紙がつるつるしている</p> <p>床で滑らせない</p> <p>紙の上で寝そべりたい「考える」</p> <p>紙をうねらせたい</p> <p>自分の体を包みたい</p> <p>紙を立たせたい「見付ける」</p> <p>紙を切る、折る、曲げることができる</p>	<p>題材のねらい:釘を打ち連ねていく活動(「こと」)を通して自ら「感じる」「考える」「見付け」ながら構想を深め、自分の心がひかれる動物のすみかを、工夫してつくりだす</p> <p>指導内容</p> <p>造形への関心・これまでの学習など、児童の実態をとらえる「もの」「人」「こと」</p> <p>教師自身も以下の事項との体験的なかかわりをもつ</p> <p>動物に関する多種類の資料で検討する「もの」</p> <p>多種類の「板材」で釘打ちをする「こと」</p>  <p>ア「こと」にかかわる</p>	<p>直接見ることができないものにも思いをめぐらせる</p> <p>「考える」</p> <p>関心の対象が広がり、対象に憧れをもって見たり、批判的に見たりする</p> <p>「考える」「見付ける」</p> <p>表現方法では、手応えのある活動に意欲をもつ</p> <p>「感じる」</p> <p>これまで見たことのない動物と出会うことで新しい発想や構想をする</p> <p>「見付ける」</p> <p>くぎ打ちは自分の力加減や打ち方で音や感触の違いを実感する</p> <p>「感じる」</p> <p>釘の点は打ち連ねると線や面、空間ができることに気付く「見付ける」</p>
	<p>主な「もの」を決定</p> <p>紙の種類は白ボール紙、厚みは1mm、大きさは900×1100</p> <p>白ボール紙の四つ角はラウンドにカットする</p> <p>接着には「速乾性接着剤」</p> <p>切りにくさを感じる児童は濡れ雑巾で拭く 数量単位はミリメートル</p>	<p>主な「もの」を決定</p> <p>児童が出会った事のない種類の動物100種類をカードサイズに印刷</p> <p>釘は 16×25、板は板材を250×300×10にする</p> <p>接着は速乾性接着剤を使う 数量単位はミリメートル</p>		
イ、 「もの」 「人」 「こと」 と体 全体 の感 覚 (例)	<p>「もの」「人」「こと」とかかわる造形への関心を引き出す出会い</p> <p>児童の濡れぞうきんを点在させ、導入に「集会室散歩」をしながら自分の雑巾を探すよう指導する</p> <p>「もの」</p>	<p>体全体の感覚を使ってかかわる中で「感じる」「考える」「見付ける」楽しさを味わう。</p> <p>いつもとは異なる活動場所である集会室の広さや特徴を体でとらえる</p> <p>「感じる」</p>	<p>「もの」「人」「こと」とかかわる造形への関心を引き出す出会い</p> <p>図工室の中央のスペースを空け、約120枚の動物写真カードを広げ四方八方から見て選べるようにする</p> <p>「人」「もの」</p>	<p>体全体の感覚を使ってかかわる中で「感じる」「考える」「見付ける」楽しさを味わう</p> <p>体全体の感覚を開き、見る。友達の感じ方にも触れながら、自分の心がひかれる動物を見付ける</p> <p>「感じる」「見付ける」</p>
	<p>大きな紙をついたての奥に隠しておき、突如児童の目前に登場させる</p> <p>「もの」</p>	<p>紙をよく見る。紙に働きかけよう</p> <p>関心を高める</p> <p>「感じる」</p>	<p>動物名と動物の本分布地が分かる簡単な資料を一部用意する</p> <p>「人」「もの」</p>	<p>動物に関して想像を膨らませる。友達と共に資料を見て、動物について話したり、自分の考えを紹介し合う</p> <p>「感じる」「見付ける」</p>
	<p>一人ずつに紙を手渡す</p> <p>「人」</p>	<p>体全体の感覚を使って紙とかかわることへの意欲が高まる</p> <p>「感じる」「考える」</p>	 <p>イ 出会い</p>	<p>共用の描画材</p>  <p>ウ 活動に応じて追加する</p>
	<p>友達と程よい距離間を保って活動できるように指導する</p> <p>「もの」「こと」</p>	<p>自分なりに紙をとらえ思いのままに活動する</p> <p>「感じる」「見付ける」</p>	<p>やり直し可能な指導内容</p> <p>釘を打ったり抜いたりし、何度もやり直しのできる時間や内容を設定し、指導する</p> <p>「こと」</p>	<p>行きつ戻りつしながら活動する</p> <p>動物名と動物の本分布地が分かる簡単な資料を一部用意する</p> <p>「人」「もの」</p>
	<p>やり直し可能な指導内容</p> <p>大きな紙と同質で長さや面積の異なるものを十分に用意し、提示する</p> <p>「こと」</p>	<p>行きつ戻りつしながら活動する</p> <p>感じたこと、考えたこと、見つけたことを試すことができる</p> <p>「考える」「見付ける」</p>	<p>やり直し可能な指導内容</p> <p>釘を打ったり抜いたりし、何度もやり直しのできる時間や内容を設定し、指導する</p> <p>「こと」</p>	<p>行きつ戻りつしながら活動する</p> <p>体全体の感覚を使って釘を何度も打ったり抜いたりしながら表現できる</p> <p>「感じる」「考える」「見付ける」</p>
	<p>全体での適宜な指導</p> <p>学級全体の状況をとらえた上で、数人の児童の活動で切ることで、折ることを提示する</p> <p>「人」「こと」</p>	<p>新たな造形感覚に気づく</p> <p>これまでの学習を想起する</p> <p>はさみやのりを使えば紙がより変容することに気づく</p> <p>「考える」「見付ける」</p>	<p>全体での適宜な指導</p> <p>下書きをしないで、直接、釘を打ち連ねながら、「すみか」を構想するよう指導する</p> <p>「こと」</p>	<p>新たな造形感覚に気づく</p> <p>体全体の感覚を使って釘を何度も打ったり抜いたりしながら表現できる</p> <p>「考える」「見付ける」</p>
	<p>途中、それまでの作品を全員分集会室に点在させ、ひな壇の上から見るができるようにする</p> <p>「人」「こと」</p>	<p>つくっているものをあらゆる視点で見て、自他のよさや違いを感じる</p> <p>「感じる」</p>	<p>3・6時間目の導入で、それまでの作品を全員分教室の壁に展示しておく</p> <p>「人」「こと」</p>	<p>自他のよさや違いを感じたり、自分の造形活動に生かせることを考え、見る</p> <p>「感じる」「見付ける」</p>
と全 うが 「もの」 の感 覚を 個人 別使 つ「人」 指導 て「こと」 かか わると 体	<p>一人一人の「感じる」「考える」「見付ける」活動の状況をとらえ、適宜、個別指導</p> <p>状況に即してこれまでに経験のある表現材料を追加する</p> <p>「もの」「こと」</p>	<p>かかわる「もの」「人」「こと」を自ら見つけ選択しながら、造形活動する</p> <p>既習の表現方法・技能を想起し、それらを生かして活動しようとする</p> <p>「考える」「見付ける」</p>	<p>一人一人の「感じる」「考える」「見付ける」活動の状況をとらえ適宜な個別指導</p> <p>状況に即してこれまでに経験のある表現材料を追加する</p> <p>「こと」</p>	<p>かかわる「もの」「人」「こと」を自ら見つけ選択しながら、造形活動する</p> <p>既習の表現方法・技能を想起し、それらを生かして活動しようとする</p> <p>「考える」「見付ける」</p>
	<p>追加したもの</p> <p>重ね塗りのできる、硬質に調整したアクリル性共同絵の具</p> <p>水性フェルトペン ステーパー</p> <p>四方八方から持ち運べる場所に設置する</p> <p>「もの」「こと」</p> <p>可能性を引き出す指導内容</p> <p>実体験に結びつく言葉かけや共に活動し、方法を具体的に提示する</p> <p>「もの」「人」</p>	<p>自分のよさや可能性に気づく</p> <p>表現材料や方法を試したり、友達の活動を見に行こうとする</p> <p>「感じる」「見付ける」</p>	<p>追加したもの</p> <p>アクリル性共同絵の具、自分持ちの水彩絵の具</p> <p>水性フェルトペン、綿、布 など</p> <p>共同のものは、四方八方から持ち運べる場所に設置する</p> <p>「こと」</p> <p>可能性を引き出す指導内容</p> <p>実体験に結びつく言葉かけや共に活動し、方法を具体的に提示する</p> <p>「人」「こと」</p>	<p>自分のよさや可能性に気づく</p> <p>表現材料や方法を試したり、友達の活動を見に行こうとする</p> <p>「感じる」「見付ける」</p>

研究の結果と考察

1 視点ア 「もの」「人」「こと」と体全体の感覚を使ってかかわることができる題材設定

第2学年では8割の児童が、体全体の感覚を使って、友達と一緒に紙にくるまったり、紙を振って音を出したりしながら紙の特性をとらえようとした。第6学年では100種類以上の動物の写真を何度も見て、自分の心がひかれる動物を選んだ。また、「釘を打ち連ねていくことで、釘の点が線や面になることが分かり、それを利用して動物のすみかをつくる」という設定は、児童が「家」や「巣」の概念を越え、動物が住む空間を表現することにつながった。これらのことから、教師自身も「もの」「人」「こと」と体全体の感覚を使ってかかわりながら題材設定することは、児童自ら「感じる」「考える」「見付ける」造形活動に欠かせない指導の工夫であった。

2 視点イ 「もの」「人」「こと」と体全体の感覚を使ってかかわることができる全体指導

視点アで示したとおり、第2学年の指導では90×110(cm)の大きな紙を教師が提示したことで約8割の児童がその紙に関心を向けた。残り2割の関心を示さなかった児童は、教師が活動状況をとらえ、友達が「この紙、ぼくの体隠れるよ」などと言って紙とかかわっている様子等を例示したことから、紙とかかわることへの関心が高まった。第6学年では、教師が「動物名と分布地の資料」を適宜、提示したことで、友達と話したり自分が選んだ動物を紹介し合ったりなど造形への意欲が高まった。これらのことから、第2学年では具体的な友達の造形活動の例示・第6学年では題材に関する資料の提示を通した「人」とのかかわりを促す適宜な指導が有効であった。また、第2学年での重ね塗りが可能な描画材・第6学年での「釘を打ったり抜いたりできる」というやり直し可能な内容を通し「こと」とのかかわりを促す適宜な指導が、児童自ら「感じる」「考える」「見付ける」造形活動に有効であることが分かった。

3 視点ウ 「もの」「人」「こと」と体全体の感覚を使ってかかわることができる個別指導

「もの」「人」「こと」と体験的にかかわる視点イの全体指導を進めることで、約8割の児童は自分で感じたこと、考えたこと、見付けたことを実現しようとした。さらに、教師は個々の児童の活動状況をとらえて児童の必要に応じた材料や用具を提示し「もの」とのかかわりを促す・友達の活動を見るなど「人」とのかかわりを促す等の適宜な指導が、児童自ら「感じる」「考える」「見付ける」造形活動に有効であることが分かった。残り2割の児童に対しては、教師が共に活動しながら造形感覚を引き出す視点や方法を提示することで、児童は「もの」「人」「こと」と体全体の感覚を使ってかかわりながら、「感じる」「考える」「見付ける」造形活動をすることができた。

4 研究のまとめ

指導において、教師自身も「もの」「人」「こと」と体験的にかかわりながら題材を設定し、児童が「感じ」「考え」「見付け」ながら行う造形活動を確かめた上で、「もの」「人」「こと」と児童が体全体の感覚を使ってかかわることができる適宜な指導が必要である。このような指導をすることで、児童自ら「感じる」「考える」「見付ける」造形的な創造活動を行うことができる。

今後の課題

図画工作科における児童の「感じる」「考える」「見付ける」力は、どの題材でも児童が体全体の感覚を使っての造形活動を継続的に行うことによって関連的・総合的に高まることから、今後、本研究を踏まえ、各題材のつながりや年間指導計画及び各学年の関連について実践的な指導内容を研究する必要がある。